

[居場所をやってみたい](#)[IMG 20190308_130425](#)

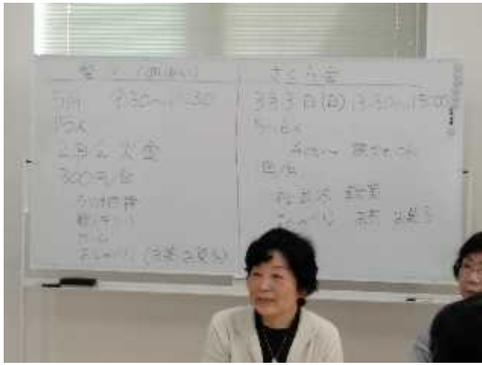
平成31年3月8日、焼津市居場所見学ツアーのバスは森町の「森のこかげ」に別れを告げ、浜松市南区にある「現役っこクラブ」へ。到着して部屋に案内されると、スケジュールが書かれたホワイトボードには“オープンに向けての企画”“発表”の文字が。

昨年11月から4回に亘って行われた講座では、実際に「模擬居場所」も開催しています。受講生の皆さんには元気や笑顔を引き出す実行力も付いているということで、いよいよここから開催に向けての一歩を踏み出します。講座終了後のアンケートで立ち上げの意思を持っていたお二人の想いの実現に向け、皆で具体化させていくことになりました。居場所づくり講座の際、講師を務めてくださった(株)LCウェルネスの見野代表と徳増専務が、今日も後押しの言葉やアドバイスをくださいました。

[居場所をやってみたい](#)[居場所をやってみたい](#)

まず始めに視察した「森のこかげ」さんで感じたことを一人ずつ。「自分たちも来る方も楽しく、という前向きさを感じ、温かい家にいる感じがした」「コンスタントに活動を行くためには無償ボランティアでは難しさを感じる。公的な援助が欲しい」「運営に男性の関わりは必要。地域・家族の助けは欠かせない」などの感想とともに聞かれたのは、「あんなレベルのことはとてもできないけれど、もっと気楽に、できることからなら・・・」という言葉でした。今回立ち上げの意思を持つお二人も、自宅でご近所さんを対象に気楽にやりたい、という気持ちです。

[IMG 20190308_134520](#)[居場所をやってみたい](#)



居場所をやってみたい

お二人の夢を実現するために今日のメンバーを二つのグループに分け、それぞれ居場所の名称からオープン日時、対象にする人、人数、募集方法、そして活動内容や収支見込など、具体的なことを決めていきます。参加者の中には既に居場所活動に携わっている方もあり、事前に準備すべきことやご本人の気付かない問題点にも多角的な助言が出てきました。

一時間余りの話し合いで、それぞれの居場所の概要が具体化されました。一か所は『さくら会』と名づけられ、3月31日の午後、ご自宅裏にある川沿いの桜並木をお花見散歩した後、茶話会で楽しくお喋り。それを1回目とし、その後は来た方の意見を聞きながら月1回でスタートしていくというもの。参加費は200円(小学生以下無料)にしました。

もう一か所は『居場所 愛々』。ご自宅の改装を計画中の為、開催日は5月某日ということですが、火曜金曜の週2回、午前9時半から参加費300円で。ラジオ体操や歌、風船うちわなどのゲームをした後、茶菓子を楽しみながら自由なお喋りタイムとし、気を使わない和やかな会にしたいそうです。同じグループになった方の一人が、歌の際のギター伴奏を買って出してくれました。

グループごとに実施のお手伝いをするだけでなく、“今日の参加者で都合のつく人は、どちらの居場所にも参加！”ということになり、心強い応援団もできました。



[IMG 20190308_151726](#)



[IMG 20190308_151849](#)



居場所をやってみたい

実施案がまとまったところで、「現役っこクラブ」さんの使用している居場所ルームを見せていただきました。

壁には東海道53次ウォーク(近くの芳川手堤防沿いを歩く)の参加者が、いつ、どの地点まで進んだかのコース距離表や宿場行程図などが張られ、工夫を凝らした身体にも脳にも良い活動の様子が伺えました。室内には心地よい音楽が流れています。これは脳を活性化させる周波を発するアンプから流されているとのこと。アンプと言っても見た目はガラスのドームにお花が入った素敵なインテリアといった感じのものです。「聴いてるだけで脳が活性化されるならずと聴いていたいよね！」と短い時間でしたが癒しの音楽に耳を傾けました。



居場所をやってみたい

最後は居場所ルームの前で記念撮影。たくさんの刺激と自分たちの身の丈に合った居場所開設のための確かな一歩を踏み出し、帰途に着きました。

「森のこかげ」「現役っこクラブ」の皆様や、市の地域包括ケア推進課の方たちの後押しで踏み出した今回の居場所が、時間をかけて醸成され地域に根付きますように。そして身近な居場所が地域のあちこちに生まれ、支え合いの環境が豊かになりますように、と期待が膨らみます。皆で温かく育てていきましょう！

志太榛北地区担当特派員

増田昌江